

2023年度

アルミニウム二次地金・同合金地金生産

生産・出荷ともに微増

一般社団法人日本アルミニウム合金協会はこのほど2023年度（2023年4月～2024年3月）のアルミニウム二次地金と同合金地金の生産と出荷の実績を発表しました。

生産量は729,642トンで前年比0.9%増加し、出荷量も733,508トンと前年比0.8%の増加と3年連続で70万トン台を維持できました。

産業部門別の出荷を見ると、主力のダイカストは前年比1.6%の増、鋳物も1.0%増えました。板は0.2%増とほぼ横ばい。鉄鋼向けは2.3%の減少で、押出は16.3%の減少でした。

日本経済はコロナ禍の3年間を乗り越えて緩やかに回復し、30年ぶりとなる高水準の賃上げや企業も高

い投資意欲など、経済の先行きに前向きな動きは見られ、デフレから脱却できる千載一遇の機会を迎えている状況にあります。

その一方で、海外景気の下振れリスクや物価動向に関する不確実性の存在、令和6年正月の能登半島地震の影響にも十分注意する必要があるとされています。

この様な経済環境の中で、令和5年度は、アルミニウム二次合金の需要を支えてきた我が国の自動車メーカーの国内生産が回復し、前述の通り、鋳物・ダイカスト向けの需要が対前年比増加となる良好な兆しが確認される一方で、アルミ二次合金の原料となるアルミスクラップの発生量の減少とスクラップ価格の高止まりする状態が発生しました。

アルミ二次地金・同合金地金の生産と出荷

		2021年度	2022年度	2023年度
総生産量		761,154 (+9.0)	722,896 (-5.0)	729,642 (+0.9)
総出荷量		770,533 (+9.0)	727,743 (-5.6)	733,508 (+0.8)
部門別 出荷 量	ダイカスト	421,886 (+6.5)	394,153 (-6.6)	400,379 (+1.6)
	鋳物	202,529 (+13.3)	200,588 (-1.0)	202,691 (+1.0)
	板	55,689 (+5.8)	52,355 (-6.0)	52,481 (+0.2)
	押出	16,739 (+0.7)	14,355 (-14.2)	12,014 (-16.3)
	鉄鋼	46,239 (+23.7)	41,315 (-10.6)	40,375 (-2.3)
	合金メーカー向	25,493 (+8.3)	23,856 (-6.4)	24,226 (+1.6)

(単位：トン、カッコ内は前年比パーセント)

日本アルミニウム合金協会

定 時 総 会 開 催

5 月 15 日 ・ 東 京

一般社団法人日本アルミニウム合金協会は5月15日に東京霞が関の霞山会館で第50回定時総会を開催しました。総会では下記の新役員が選任されました。

会 長 田代裕一氏 (エスエスアルミ)
副会長 林 繁典氏 (大紀アルミニウム)
副会長 香山昌志氏 (日軽エムシーアルミ)
事務理事 伊藤 浩氏

政府の最近の月例経済報告では「景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。」とされています。

令和6年度の実質GDP成長率は1.3%程度、名目GDP成長率は3.0%程度の上昇率になると見込まれており、一方では、海外景気の下振れリスクや物価動向に関する不確実性が存在すること、令和6年正月の能登半島地震の影響、金融資本市場の変動の影響等に十

分注意する必要があるとされています。

この様な状況の中で、昨年は、アルミ二次合金の原料となるアルミスクラップの発生量の減少とスクラップ価格が高止まりする状況になりましたが、アルミ二次合金の需要を支えてきた我が国の自動車メーカーの国内生産が回復し、今後は増加する合金需要に適切に対応していくことが重要な課題となっております。

また近年、カーボンニュートラルへの取り組みから再生アルミに対する関心が高まっており、自動車のEV化関連では鋼材からアルミへのシフトも予想されています。地球環境保全の観点から、省エネやCO2排出削減に寄与する重要な基礎素材であるアルミ二次合金の安定供給により資源循環の一翼を担う当業界の果たすべき役割と責任は更に重大になっています。

高 橋 記 念 賞

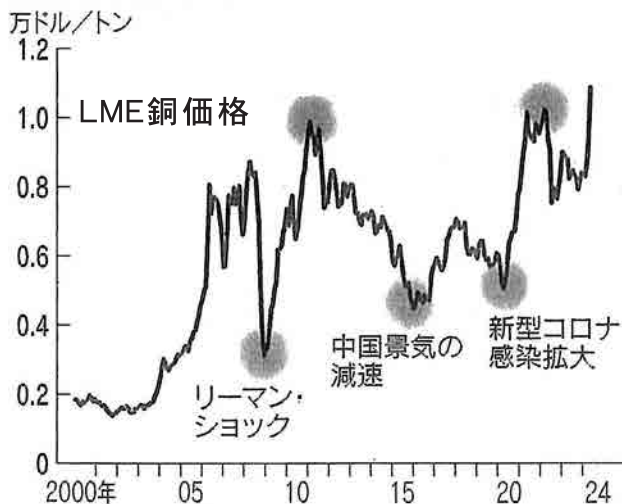
この賞は、昭和54年(1979年)6月の発足以来、アルミニウム合金地金・同二次地金製造の技術向上、合理化などに創意工夫を通じて功労のあった現場の技術者に与えられます。

本年度は当社から梅田祐里さんを推薦、めでたく受賞しました。祐里さんはベース配合、炉中分析業務に従事し、明る性格で社員の信頼も厚く今回の受賞が決まりました。永田工場長もニコニコ。



受賞者は梅田祐里さん (写真右)

非鉄金属、全面高



日本経済新聞 (5/21) より (出所IMF)

銅の国際価格が5月20日、一時1万1100ドル台をつけ、2年ぶりに高値を更新しました。

銅やアルミなどの非鉄金属は用途が広く、電気自動車の普及や生成AI開発データセンターの需要増に伴い電力消費量が増え、導電率の高い銅やアルミの使用量の拡大が見込まれ、投機筋からのマネー流入も加速しています。

これらのことから、産業用を中心に幅広く使用される可能性の高い主要非鉄金属の国際相場の動きには今後も注意が必要と思われる。

ニュージーランドより来客

4月25日(木)にニュージーランド、ウエリントンよりマッコレーメタルズの社長ジェフ・ハリスさんと奥様、娘さんが来社されました。

先代マッコレー社長は旧工場時代に来社されており古いお付き合いです。ハリス社長の奥様と娘さんは初来日で、京都・広島・東京移動中でのご訪問。日本の街中のきれいさに好印象でした。

西尾市では、老舗茶房を訪れ、オリジナル抹茶スイーツを堪能しました。

アスカ工業の工場見学では、ヤードの品種ごとの細かい区分に「すばらしい」を連発。

ニュージーランド国旗の下で、天野社長、岡田専務とともに記念撮影いたしました。(写真 右)



三ヶ根山あじさいまつり



三ヶ根スカイラインは西尾市から形原温泉を結ぶ約5 kmの道路で、「あじさいライン」として知られており、6月から7月上旬に約7万本のあじさいが咲く山路を抜けると、眼下に三河湾の大パノラマが広がります。

例年6月1日から6月30日まで「三ヶ根山あじさいまつり」が行われ、あじさいの花と三河湾の眺望が楽しめます。6月15日(土)には、三ヶ根山スカイライン山頂駐車場で、物産展や大抽選会などイベント盛りだくさんです。

(写真・あじさいと三河湾)

社内情報

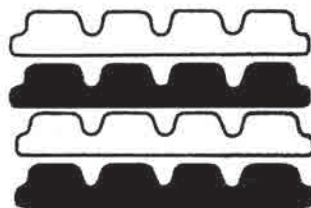
- ◎高橋記念賞の梅田祐里（旧姓児玉）さんおめでとうございます。
- ◎5月中、矢作川沿いの茂みからウグイスの美しい声が響く日が続き、気ぜわしい日常に潤いを与えてくれました。
- ◎毎年、駐車場横の茂みにシギが卵を生んで育てます。カラスの攻撃をかわしながら今年も無事にたくましく巣立って行きました。

編集後記

- 東京株式市場で、3月4日に日経平均株価が史上初の4万円台に乗せました。
- NYダウは、5月17日に終値ベースで初めて4万ドル台に到達しました。
- 6月から実施する、所得税・住民税の定額減税について、所得税の減税額を給与明細に明記することを企業に事務付けします。「分け与えてやった」感が強いですが、元々我々の血税です。

アルミ缶リサイクリング 铸造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、铸造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)

アスカ工業株式会社

〒444-0303

愛知県西尾市中畑町卯新田上28

TEL <0563> 77-0500(代)

FAX <0563> 77-0501

<http://www.al-asuka.jp/>